

令和5年度 南アルプス市立大明小学校 学校関係者評価書

南アルプス市立大明小学校 学校関係者評価委員会

- 1 評価実施日** 令和6年1月17日（水） 学校関係者評価委員会を開催して実施
- 2 評価の方法** 学校が作成した自己評価書をもとに学校関係者評価委員が対談を行い、評価委員の代表がそれを集約して「学校関係者評価書」を作成しました。
- 3 評価者** 学校関係者評価委員
石川正人（元小学校校長） 長田良子（元小学校教諭）
市川和男（学校協力者） 石川文子（大明小学校区 主任児童委員）
高野晃史（民生委員・児童委員 大明地区代表）
清水由美（PTA会長） 金指良美（PTA副会長）
自己評価書作成
三井 保（校長） 河西絵美（教頭）

4 学校関係者評価

- アンケートの集計から、教職員の着実な取り組みが行われていて、安定した学校運営がなされていることが見て取れます。特に、HPや学年だより等による情報発信、支援委員会による全校体制の支援、保護者との連携と相談体制については、大明小の長所として評価されるべきポイントだと思います。
- 中学生が小学生と関わり交流していくことで、お互いに良い影響を与え合えると感じました。小中一貫校としての取り組みには、どんなものがありどんな成果を上げているのか、より詳しく知りたいと思いました。
- 今年度は、全学級の授業視察、道徳の授業、運動会、文化発表会など、実際に学校の活動の一部を知ることができ、アンケートの集計も合わせる中で、教職員が意欲的に教育活動に取り組んでいることがよくわかりました。教職員のチームワークがよくて雰囲気も明るく、児童がどの先生に対しても話ができていく様子が見られます。教職員間で共通理解が図られていることを感じました。大明小では不登校が0というのも、とても納得が이었습니다。
- それだけに、教職員の心身の健康状態はとても気になります。残念ながら、授業や行事の参観からはそこまではうかがい知ることはできませんでした。また、教職員の自己評価アンケートへの具体的な記述も少なく、よくわからないというのが本音です。

アンケートに、勤務の状況を振り返るような項目をつけ加えると共に、数値や文章では表現しにくいこともあると思うので、学校関係者評価委員が先生方と直接お話しできる機会を検討してください。

5 保護者アンケートの中で、特に気になったのは、

一生懸命関わって頂いていると思いますが、先生の専門的な力がもっと欲しいです。子ども理解、集団のまとめ方、1人ひとりが主体的になれるような役割を与える機会作り、授業の理解度アップなど。大変なのは重々承知しております。 (原文のまま)

という記述です。

「先生の専門的な力」には、「A. 校内研究に代表されるようなみんなで共有できる授業力・指導力」「B. 先生個人の幅広い素養や伝える力」の2種類があります。Aについては学校としての取り組みがある程度可能ですが、Bについては教職員自身に自己研鑽していく時間的・精神的な余裕がなければ、その力量を社会の変化に対応してアップデートしていくことは不可能です。

一般的に目にする報道では、教職員の過酷な勤務状況、教員志望者の減少、学校・教職員が多くのことを抱えすぎていて本来学校が担うべき指導に多くの力を費やすことができにくい、といったことが伝えられています。その意味からも、④で述べた「大明小での教職員の勤務状況」は気になるところです。「先生の専門的な力」を発揮してもらうためにも、一般的な報道のみならず大明小での実際の状況を共感的に理解した上で、保護者や地域住民が直接的にも精神的にもしっかり支援していく必要性を強く感じます。保護者や地域などからの要求をすべて学校が引き受けるのは本末転倒であり、学校でやるべきことを取捨選択していく時期にきていると思います。

6 学校評価の指標として、「児童」「教職員」「保護者」の3種類のアンケートがあります。

「児童」「教職員」のアンケートの項目がおもに自身の活動を顧みる自己評価であるのに対し、「保護者」のアンケートの項目は、携帯電話に関するものを除き、保護者が学校（教職員）や児童の活動を評価するものとなっています。これは企業が行う顧客へのアンケートとほぼ同じです。

こと「教育」に関しては、保護者は「消費者」ではなく、教職員と共に未来を担う子どもたちの育成に携わる「教育の協働生産者」であり、いわゆるサービスを提供する側とそれを受ける側の関係とは異なるはずです。

これまで学校が保護者や社会のニーズに誠実に向き合ってきた結果、「子どもに関するサービスの提供」という側面が強くなりすぎて今の学校のオーバーワークを招いている、という分析もあります。保護者、地域住民、そして教職員自身、さらに教育行政にも意識の変革が必要な時期に来ていることを強く感じます。

その意味からも、保護者アンケートの中に「保護者自身の意識や取り組み」を顧みることの

できる項目を検討してください。

また、「授業参観」→「授業参加」→「授業参画」と意識が高まっていけるような取り組みも工夫してみてください。（例えば、道徳の授業公開時に、保護者も参加して児童と共に課題を考え発言する、など……。道徳の授業公開のとき、保護者が児童の後ろから授業を参観している様子を見て、こんなことを思いました。保護者や地域住民も「教育の協働生産者」という意識に基づけば、会場設営も変わってくるはずです。）

7 「子どもは、家庭学習に意欲的に取り組んでいる。」については、他の項目に比べ否定的回答が比較的多く、特に宿題については正反対の要望も出されています。

学校では「自分に必要な学習や家庭学習を考えて自主的に取り組むことができるようにしていくことを目標に、学年や児童一人一人の発達段階や取組の状況を考慮して宿題や家庭学習の取組を進めている。」という宿題に対する明確な指標を持っているので、保護者にはそれを理解の上、各家庭や児童の実態に即した取り組みを考えていってほしいと思います。

8 最後に、保護者アンケートに記された教職員へのエールを原文のまま転記します。

- 大明小学校は、熱心な先生ばかりでありがたいです。
- 子供達のことを理解してそれぞれに対応してくれて、何かあったときには連絡くれて相談にもものって頂けるので感謝しています。勉強面も先生が調べてその子にあった方法で対応してくれているので、子供も安心して勉強ができていますので本当に助かります。
- 成長と共に友達関係での悩みや心配事が出てきますが、とても細やかに対応していただいているので親子共々安心しています。家庭学習の取り組み方は家でも指導していきたいと思えます。
- 担任の先生はノートで相談したことがあると、次に学校で会った時に声かけしてくれてすごく心強いです。校長先生も子どもが話しやすいみたいで助かっています。
- 日頃から丁寧に指導や関わりを持って下さりとても感謝しています。
- 良い先生達に巡り会えてとても感謝しています。
- いつも親身になって子ども達のことを考えて下さって大変ありがとうございます。

多岐にわたる課題に果敢に挑んでいる教職員の皆様のご尽力と懸命に子育てに奮闘する保護者の皆様の努力に敬意を表し心からのエールを送ると共に、この学校関係者評価が、大明小教育をより良くしていくためのヒントや新たな視点になっていただければ幸いです。

文責 石川正人（学校関係者評価委員 代表）
評価書作成事務 河西絵美（教頭）